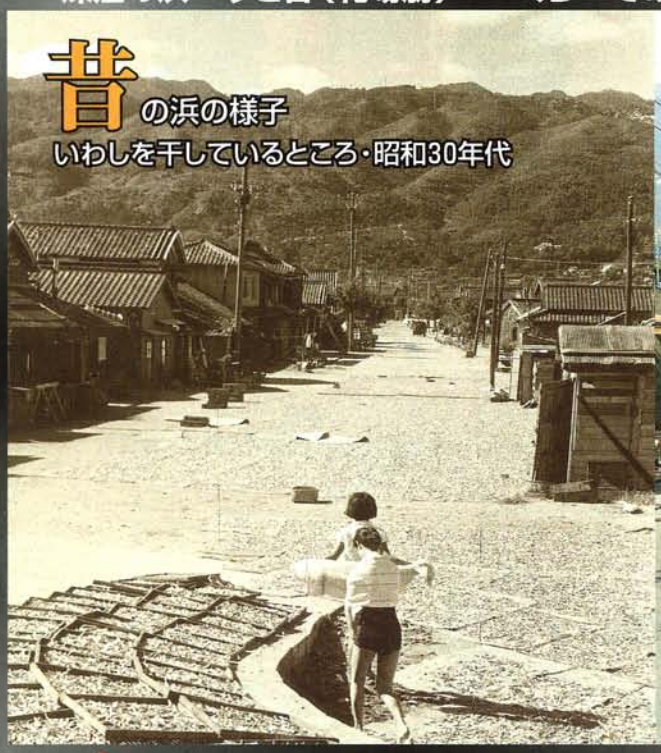
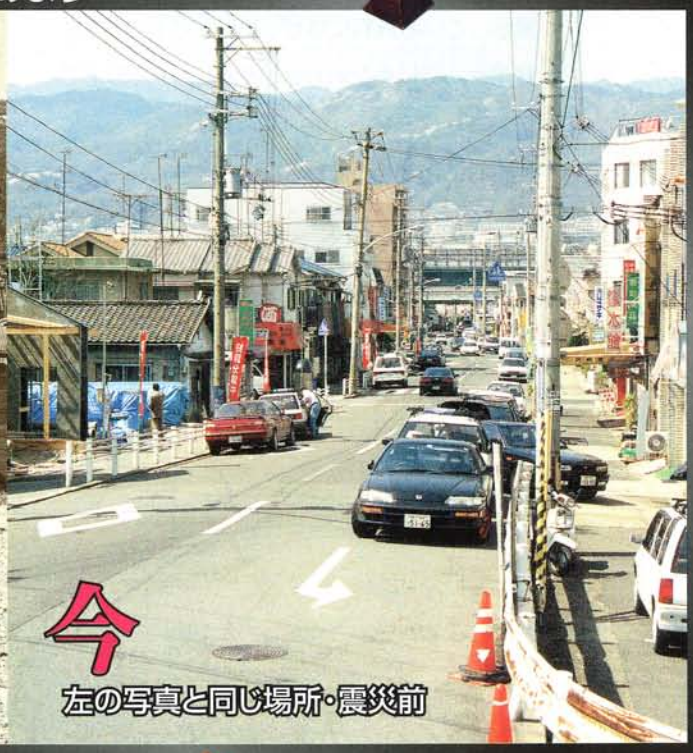
まちとくらしのれきし
子供用パンフレット

ちくおんき

深江の浜　今と昔（札場筋）　―くらべてみよう―





見学日　　年　　月　　日

神戸深江生活文化史料館

なまえ

神戸深江生活文化史料館のあらまし

神戸深江生活文化史料館は、まちかどにある小さな歴史博物館です。深江は大昔から人が住んでいた所で、その歴史を調べていくうちに、たくさんの資料（農家で使っていたもの、漁師さんが使っていたもの、むかしの食器、学校で使っていたもの、おもちゃ、きもの、むかしの電化製品、古い記録や新聞など）が出てきました。それらをみなさんに見てもらおうと、昭和56年（1981）深江財産区という団体の人たちによって、この史料館はたてられました。

ここには、大昔の道具から、みなさんのおじいさん、おばあさんが本当に使っていたものまで、いろいろな資料を展示しています。また、昔のことを調べるための本なども置いてあります。古い資料をじっくり見たり、本でたしかめたりしながら、昔のことを調べてください。そして、わからないことがあれば、史料館の先生にどんどん聞いてください。

この史料館に置いてある物は、すべて大切な「歴史のしょうこひん」です。見学する時には、次の三つのやくそくをかならず守ってください。

見学のときに守ってほしい3つのやくそく

1：展示している資料にはぜったいにさわらない!

2：展示ケースにもたれかかったり、ケースの上で字を書かない!

3：史料館の中を走りまわらない!

え・たけうちあやこ（表紙とも）

さあ、自分の目や耳を使って、いっぱい勉強してください。

※表紙・昔の浜の様子：喜多一晴氏 撮影

まちのうつりかわり

深江のあたりは、約2000年前には人が住んでいました。そのころのおはかや道具が史料館の東がわや、本庄小学校から出てきています。そして、今の深江の村の形ができたのは、やく500年前だといわれています。

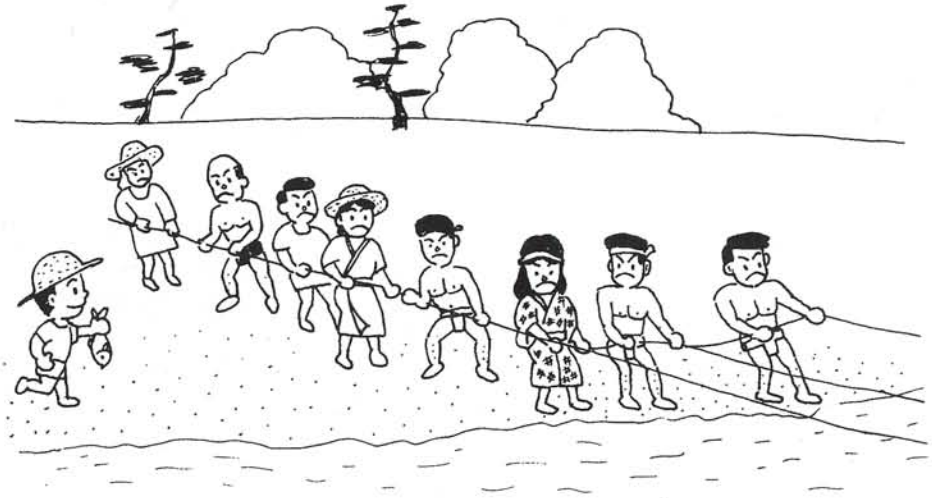
徳川の将軍が江戸にいたころ深江の周辺では、いろいろなさんぎょうがさかんになってきました。山では住吉川の上流にある採石場からとった石を「御影石」として日本中に売り出しました。また、きれいな水を生かしてお酒も造られ、「灘の生一本」としてゆうめいになりました。

明治時代になると外国との行き来もさかんになり、港も大きくなって行きました。また、東海道本線・阪神電車・阪急電車なども通り、交通がべんりになりました。工場もふえ、多くの人が集まってきました。しかし、昭和13年（1938）の阪神大水害では、住吉川がはんらんし、家や田畑が水につかり、多くの人がなくなりました。さらに、昭和16年（1941）からはじまった太平洋戦争では、空襲でたくさんの人がなくなり、多くのたてものがやけてしまいました。

空襲で焼けた本庄小学校

戦争がおわってからは、やけ野原になった町をもとどおりにするために、みんなが力を合わせました。昭和25年（1950）には、東灘あたりの村々が神戸市とがっぺいして神戸市東灘区とよばれるようになりました。このころから、少しずつ田畑もなくなり、家がたくさんたてられました。阪神高速などもでき、大阪と神戸をつなぐ大切な町としてはってんしてきました。

平成7年（1995）の1月17日におきた大きな地震では、たくさんの人がなくなり、多くのたてものがつぶれました。しかし、この時もたくさんのボランティアの人が全国から集まり、みんなで力を合わせてがんばりました。そして今も、もっとくらしやすい町にするために、みんながんばっています。



史料館に展示している資料

【昔、使った道具】

●昔、仕事に使っていたもの

江戸時代（今から350年前くらい）、深江の村の人たちは、半分の人は農業を、また半分の人は漁業をしてくらしをしていました。史料館には農業のときに使った道具と漁業のときに使った道具を展示しています。

農具ー農家の人たちが使っていたもの

昔の農家の人たちは、いろいろな道具を使って、苦労しながら田んぼで米を作っていました。ここには、土をほるためのクワやスキ、草かりのための除草機、いなほから実をおとす千歯こき、もみがらをたたいてわるカラサオ、実とからをわける唐箕や千石とおしなどがあります。

農具のコーナー

クワ

除草機

千歯こき

カラサオ

唐箕

千石とおし

漁具（ぎょぐ）ー漁師さんが使っていたもの

深江の浜では昭和30年代の終わりに浜がうめたてられるまで、きれいな砂浜があり、たくさんの漁師さんが魚をとって生活をしていました。昔の水中めがね、ガラスでできたウキ、ケタ、モンドリカゴ、タコツボ、船のかじやスクリュー、いわしをとるときの道具など、昔深江の浜で使っていたものを展示しています。

漁具のコーナー

タコツボ

モンドリカゴ

ケタとウキ

いろりの部屋（へや）

わらぶき屋根（やね）の小さな家は昔の農家の様子をあらわしています。火をたくいろりがあり、ちゃぶ台の上には、トースターや缶切（かんき）りなどが置いてあり、あんかや湯たんぽも展示しています。また、教科書などに出てくるせんたく板とたらいもあります。近づいてよく見てみましょう。

いろりのコーナー

せんたく板とたらい

湯たんぽ

ちゃぶ台

●昔、生活に使っていたもの

史料館には、みんなのおじいさんやおばあさん、ひいおじいさんやひいおばあさんの時代に家の中で使っていたたくさんの品物が展示してあります。

今のものとどこがちがうかな?注意しながら見てみましょう。

昔の電化製品

ラジオ（昭和のはじめ）

せんぷうき（羽根が鉄でできている）

アイロン

電気あんか（昭和20年代）

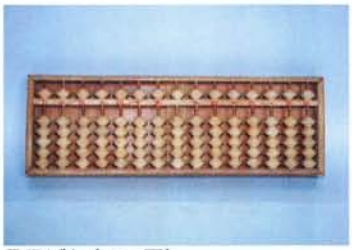
ドライヤー（昭和のはじめ、ドイツ製）

テープレコーダー（昭和20年代）

昔、学校で使っていたもの

色えんぴつ

通信簿


そろばん（五つ玉）

ハーモニカとがくふ

絵の具

昔の遊び道具

ままごと道具（大正時代）

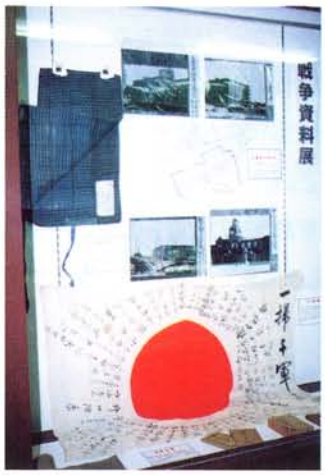
ままごと道具（昭和のはじめ）

昔の遊び道具

その他、史料館で収蔵・展示している資料

▼深江北町遺跡の大昔の資料

史料館の東の方（東灘小学校の近く）から「深江北町遺跡」という弥生時代（2000年ぐらい前）のおはかが12も見つかりました。このおはかは、低く土をもったところに死んだ人をうめて、まわりに丸いみぞをめぐらせたものです。史料館にはこの遺跡のもけいやおはかから出てきた赤ちゃん用のかんおけ、弥生土器などが展示してあります。



◀戦争の資料

太平洋戦争（昭和16～20年〈1941～45〉）の間は、本当につらく、たいへんな生活が続きました。史料館には、その時の資料があります。

◀深山医事資料

深江で江戸時代からお医者さんをしている深山先生のおうちにあった古いお医者さんの道具や記録を展示しています。これらの資料は全部深山先生が史料館にくださったものです。昔のお医者さんの道具や、江戸時代の終わりごろの種痘の記録はとても貴重です。

阪神・淡路大震災と史料館

平成7年（1995）1月17日午前5時46分、あの阪神・淡路大震災がおこり、史料館のある深江も大きな被害をうけました。阪神高速が何百㍍にもわたって横だおしになったところも、この史料館のすぐ南がわの場所です。史料館のとなりにある大日神社のおやしろもこの地震で完全につぶれてしまいました。史料館の建物はぶじでしたが、展示ケースがひっくりかえったり、ガラスがわれたり、中に展示してあった資料がちらばったりしていました。そのため、地震のあと、その年の10月21日まで史料館をあけることができませんでした。

地震では近くの古いおうちがたくさんこわれてしまい、そこにうずまった古い道具などを助け出してほしいというねがいがあり、史料館の人たちが手分けをして、資料を助け出しました。助け出した資料は、古いおうちの人のご好意で、史料館にいただけることになり、その一部を展示しています。

見学を終えて

史料館を見学して、みなさんはどんな感想をもちましたか。

教科書で見たものや授業でおそわったものの本物が、この史料館にはたくさんあったと思います。この史料館にあるたくさんの古い品物の一つ一つが歴史の生きしょうにんなのです。歴史を学ぶことは年号を暗記することだけではありません。このような歴史の生きしょうにんである古い品物に関心をもって、みんなのまわりにある昔のものごとにたくさんふれていくことが、歴史を好きになる近道だと思います。これからも、どんどん昔のものにきょうみをもっていって下さい。

今日、史料館で学んだことをおうちの方にも話してみて下さい。そして、もっとゆっくりと見学したいという人は、今度また、おうちの人といっしょに来てください。史料館は毎週土曜日と日曜日の朝10時から夕方の5時まであけています。

まちとくらしのれきし

ー神戸深江生活文化史料館子供用パンフレットー

平成10年1月1日初版発行
平成12年4月1日再版発行

執　筆：松下　修（三田市立小学校教員）
　　道谷　卓（史料館研究員）
写真撮影：藤川祐作（史料館研究員）
発　行：神戸深江生活文化史料館
　　神戸市東灘区深江本町3-5-7
　　TEL.（078）453-4980

開館日　土・日曜日　10:00～17:00
（入館は16:30まで）